

AIで“心”を再現したとき
人は何を失い、
何を見つけるのか

本 心

11.8
FRI

池松壮亮

三吉彩花 水上恒司 仲野太賀
田中泯 綾野剛 / 妻夫木聡
田中裕子

原作 平野啓一郎「本心」(文春文庫/コルグ)

監督・脚本 石井裕也「月」

音楽 Inyoung Park 河野式洋

製作：小西啓介 金子保之 竹内力 Sang Wook King 菅井 聡 尾木忠幸 稲塚隆幸 藤田雅樹 佐渡島康平
エグゼクティブプロデューサー：小島博介 竹内力 プロデューサー：永井拓郎 藤田雅樹 大崎真緒
コ・プロデューサー：Masa Sawada アソシエイトプロデューサー：田中真由 福岡要一郎 宣伝プロデューサー：田中弘美
撮影監督：飯田 敏 (JSC) 撮影：江崎裕生 (JSC) 照明：三善康貴 録音：清水城一郎 美術：高橋 努 装飾：谷田祥紀 スタ일리スト：前田恵弥ヘアメイク：宮本京々
監製：Sylvie Lager VFXプロデューサー：表羽智史 AI監修：清田 純 制作担当：榎澤隆保 宮下直也 助監督：成瀬剛一
製作：映画「本心」製作委員会 配給・製作幹事：ハピネットファンダム・スタジオ 制作プロダクション：R(K)プロジェクト
2024年 | 日本 | 122分 | カラー | シネスコ | 5.1ch ©2024 映画「本心」製作委員会

なぜ母が“自由死”を選んだのか、知りたかっただけなのに——
テクノロジーが進化する時代を彷徨う人間の本質を描く、ヒューマンミステリー

(『月』)

(『ちょっと思い出しただけ』)

(『ある男』)

監督・脚本 石井裕也 × 主演 池松壮亮 × 原作 平野啓一郎

テクノロジーの進化が著しい“今”描かれるべき傑作小説の映画化!

世界に誇る日本映画界屈指の鬼才・石井裕也監督が、
技術が発展し続けるデジタル化社会の功罪を鋭く描写。

今と地続きにある近い将来、

“自由死”を望んだ母の“本心”を知ろうとしたことから、

進化する時代に迷う青年を映し出す。

原作は、映画化も話題となった「ある男」の平野啓一郎による傑作長編小説「本心」。

主演には、近年ますます活動領域を拡張している俳優・池松壮亮を迎え、

三吉彩花、水上恒司、仲野太賀、田中浜、綾野剛、妻夫木聡、田中裕子ら、

名実ともに日本の映画界を牽引する豪華実力派俳優陣が集結。

リアルとバーチャルの境界が崩れ、利便性が異常進化し続ける今、

時代の変化に彷徨う人間の《心》と《本質》を描く、

革新的なヒューマンミステリーが誕生した。

人間の存在を
揺るがす
問題作

“自由死”を選んだ母の“本当の心”を知るために、AIで彼女を蘇らせる――。

「大事な話があるの」――そう言い残して急逝した母・秋子(田中裕子)が、実は“自由死”を選んでいた。幸せそうに見えた母が、なぜ自ら死を望んでいたのか…。どうしても母の本心が知りたい朔也(池松壮亮)は、テクノロジーの未知の領域に足を踏み入れる。生前のパーソナルデータをAIに集約させ、仮想空間上に“人間”を作る技術VF(ヴァーチャル・フィギュア)。開発者の野崎(妻夫木聡)が告げた「本物以上のお母様を作れます」という言葉に一抹の不安を覚えつつ、VF制作に伴うデータ収集のため母の親友だったという女性・三好(三吉彩花)に接触。そして“母”は完成、朔也はVFゴーグルを装着すればいつでも会える母親、そしてほんのりなことから同居することになった三好と、他愛もない日常を取り戻していくが、VFは徐々に“知らない母の一面”をさらけ出していく……。



<https://happinet-phantom.com/honshin/> X@honshin_movie @honshin_movie

©2024 映画「本心」製作委員会

11.8 FRI ROADSHOW